

3rd circular

2013年11月10日

\*\*\*\*\*

\* **第17回東京科学シンポジウム** \*

\* \*

\* **テーマ： 理性と希望の平和な時代を拓く** \*\* **—科学の成果を正しく生かし、真の豊かさを築く—** \*

\* \*

\* **開催日時：2013年11月30日(土)～12月1日(日)** \*\* **開催場所：中央大学(多摩キャンパス)** \*\* **主 催：日本科学者会議東京支部** \*

\*\*\*\*\*

## 第17回東京科学シンポジウム 3rd Circular 発行にあたって

会員のみなさま、協力者のみなさま

メインテーマ「理性と希望の平和な時代を拓く—科学の成果を正しく生かし、真の豊かさを築く—」を掲げた第17回東京科学シンポジウムの成功をめざして、実行委員会と関係者の努力により、2つの特別報告、19の分科会、3つの展示、支部活動のポスターセッションが予定されています。定番となったプレ企画「平和のためのコンサート」も準備が進んでいます。「囲碁・シンポジウム杯」はすでに開催され、会内外の愛好者の参加を得て、穂坂繭プロ棋士の指導碁もあり、会場は熱気に包まれました。

いま、第185臨時国会の論戦真っ直中であり、第17回東京科学シンポジウムはその最終版に開催されます。安倍首相は、「この道を迷わず進むしかない」として、消費税増税実行、TPP交渉参加、規制を徹底的に除去し世界で一番企業が活躍しやすい国を目指す、国家安全保障会議設置法案と秘密保護法案の早期実現をめざす、憲法解釈変更と合わせて国民投票の手続きを整えて憲法「改正」へ、と暴走を続けています。シンポジウムの分科会での報告内容はその多くが、専門研究の成果をふまえて、安倍首相の無謀な論議に科学的メスを入れ、政府が国民の立場に立って正しく歩むべき方向を探求する論考となっています。

全体集会をも兼ねる特別報告で石山久男氏は、安倍政権の重点政策の一つ「教育再生」は自民党改憲案の成立をまたずに、その内容を実質的に実行するためのものであり、これを決して許してはならないことを強調しています。もう一つの特別報告で歌川学氏は、原発ゼロ化においても、省エネ・再生可能エネルギーで代替可能であり、気温上昇の悪影響を最低限に抑えることができ、国内雇用の増加に寄与させることができることを明らかにしています。

前回の第16回東京科学シンポジウムでは、4割以上もの非会員の方々の参加を得て盛会でした。二つの特別報告は、会内外の多数の方々にお聞き願いたい内容です。お声をかけあって充実した全体集会となることを期待いたします。あとひとふんばり、成功のため力を合わせましょう。

2013年10月31日 実行委員長 長田好弘

## 1. 特別報告

11月30日14:00~17:30(8102室)

(1) 石山久男(歴史教育者協議会前委員長)

**安倍政権の改憲戦略と歴史認識・教育「改革」の位置**

自民党は改憲案の成立をまたずに、その内容を実質的に実行するために、安倍政権の重点政策の一つに「教育再生」(教育「改革」)を位置づけている。そのためにまず過去に国家の支配者が行った行為を美化しなければならない。国家の支配者が過ちを犯すことがあるという観念を国民の頭脳から払拭しなければならないのである。安倍政権の改憲戦略を支えるこのような教育「改革」を許してはならない。「教育再生」を解明し、いま国民にとっての真の「教育再生」を考える。

(2) 歌川 学(産業技術総合研究所)

**IPCCによる気候変動の警告と、日本での対策強化の課題**

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の第五次報告の一部(第1作業部会。自然科学的根拠)が発表され、排出増を放置すれば今世紀末までに4度以上の気温上昇の可能性が予測されている。気温上昇の悪影響を最低限に抑えるため、世界の排出量を大きく削減する必要がある。

日本では省エネ技術の普及をすることにより多くの対策余地があり、また工場などでの削減事例もある。気候変動の悪影響を最低限に抑える排出削減対策を、原発が動かない場合も、多くの削減対策の中から選択していくことができる。また、対策により、化石燃料輸入で流出していた資金を省エネ・再生可能エネルギー投資で主に国内企業に回し国内雇用の増加に寄与させることが期待される。日本を含む先進国が、対策で排出削減の成果をあげ、かつ対策により関連産業・雇用が拡大する模範例を示すことは、世界の排出削減に寄与する。こうした対策の課題について報告する。

## 2. 分科会

**【1】分科会名:科学・技術の現状批判ー日本の科学・技術の健全な発展のための課題 part 6ー**

設置責任者:長田好弘(東京支部)、酒井士朗(武蔵野通研分会) 11月30日10:30~13:00(7407室)

設置趣旨:大震災、原発事故、巨大技術の不具合、ハイテク犯罪の続発など、わが国の高度知識(技術)社会は多くの重大問題をかかえている。これらの解決のために研究者・技術者が果たすべき役割はなにか。そのために必要な諸条件の獲得のためにどう行動するか。これらの交流と連帯を主とした報告・発言の場としたい。キーワード:産官学連携と研究・開発現場の実態、成果主義の破綻、研究者のカラーシ、ブラック企業、成長戦略とインフラ輸出、グローバル化(研究開発・生産・部品調達など)、高学歴ワーキングプア、科学者会議・労働組合の役割と責任、その他。

座長:酒井士朗(武蔵野通研分会)

10:30~11:00(1)長田好弘(民間委員会委員長):科学・技術の現状批判と民間委員会の活動

11:00~11:30(2)兵藤友博(立命館大学):科学・技術政策の分水嶺

ー「科学技術イノベーション政策」を考える

11:30~12:00(3)野村康秀(特許庁分会、JSA科学・技術政策委員会):

安倍政権下の「科学技術イノベーション政策」の検証

12:00~12:10 &lt;休憩&gt;

12:10~12:40(4)小滝豊美(茨城支部、JSA国公立試験研究機関問題委員会):

国公立試験研究機関の今ー課題とその解決に向けて

12:40~13:10(5)矢作英夫(武蔵野通研分会):

成果主義賃金制度、裁量労働制の更なる改悪と職場のたたかい

**【2】分科会名:IT技術と教育・労働・社会生活 part 3**

12月1日 14:00~17:30 (7401室)

設置責任者:酒井 士朗(武蔵野通研分会)、矢作 英夫(同)

設置趣旨:安倍内閣は「世界最先端IT国家創造宣言」を決定、IT利用による新市場の創設とインフラ輸出を成長戦略の柱の一つとしている。社会の広範な分野のIT化により、利便性と効率化が強調されるなか、生産と流通の場で広がる労働強化と事故の多発、監視カメラ・マイナンバー制度・政府機関によるネット監視など監視社会への不安、ネット犯罪・情報漏洩、子ども携帯電話・インターネットをめぐる問題等々が重大問題化している。本分科会は、各分野でのIT化の現状と課題、要求と実現の闘いの経験などを交流し、国民のためのIT技術の発達とその導入のあり方を考える連帯の場としたい。

座 長:酒井士朗(武蔵野通研分会)

14:00~14:30 (1) 新屋達之(大宮法科大学院大学):特定秘密保全法案について

14:30~15:00 (2) 酒井士朗(武蔵野通研分会):「ビッグデータ」を考える

15:00~15:10 &lt;休 憩&gt;

15:10~15:40 (3) 佐藤 豊、矢作英夫(武蔵野通研分会):通信インフラの老朽化問題を考える

15:40~16:10 総合討論

**【3】分科会名:科学・技術サロン—日本の科学・技術の現状とロマンを語る part 6—**

設置責任者:長田好弘、小金澤鋼一、松永光司

12月1日 10:00~17:30 (7402室)

設置趣旨:福島第一原発の汚染水漏れ・海洋流出が「レベル3(重大な異常事象)」となり、原発事故は危機的状況にあるが、政府は「新規規制基準」制定など新たな「安全神話」を振りまき、原発の再稼働と海外輸出を目指している。政府は低線量内部被曝の人体影響を無視しており、科学的知見に基づく議論と警鐘が求められている。また、宇宙の軍事利用、「武器輸出3原則」の空洞化が進み、科学・技術の軍事利用とそれへの研究者・技術者の動員が懸念される。また歴代政府施策のもとで研究・教育現場の状況悪化は著しい。こうした状況の打開をめざす議論を始め、科学・技術に関する諸問題を自由闊達に議論する。

午前の部 座 長:松永光司(東京支部科学委員会) 報告30分+質疑討論10分

10:00~10:40 (1) 長田好弘(東京支部科学委員会委員長):

東京支部科学委員会の役割と今後の課題

10:45~11:25 (2) 青水 司(市民科学研究所研究員):

原発と科学・技術の倫理—科学の二面性と科学者の社会的責任—

11:25~11:35 &lt;休 憩&gt;

11:35~12:15 (3) 中野貞彦(武蔵野通研分会):

「健康に対する権利」に関する国連人権理事会勧告に学ぶ

12:20~13:00 (4) 小金澤鋼一(東海大分会):低線量被曝論争

午後の部 座 長:小金澤鋼一(東海大分会) 報告30分+質疑討論5分

14:00~14:35 (5) 梶原 渉(原水爆禁止日本協議会事務局):米国無人機攻撃をめぐる諸問題と日本

14:40~15:15 (6) 榊原道夫(東京支部):あぶない リニア中央新幹線

15:15~15:30 &lt;休 憩&gt;

15:30~16:05 (7) 野村康秀(特許庁分会):TPPと知的財産(権)

16:10~16:45 (8) 増澤誠一(東京支部):職務発明制度見直しの動向と問題点

16:50~17:25 (9) 中野貞彦(武蔵野通研分会):秘密保護法が大学・研究機関の及ぼす問題(仮題)

**【4】分科会名:「平和的生存権」の射程—国際動向・歴史・教育・ジェンダーなどの視点から研究のあり方を考える**

12月1日 14:00~17:30 (7403室)

設置責任者:石渡真理子

設置趣旨:日本国憲法前文に明記された「平和のうちに生存する権利」(以下、平和的生存権)は、

多様に豊かな生を選びとることのできる私たちの権利であるにもかかわらず、日本および国際社会に現存する問題は、その行使に高い障壁となって立ちはだかっています。分科会では、以下の点を中心に議論したいと思います。①「平和的生存権」をキーワードとして、国際動向・歴史・教育・ジェンダーなどの視点で現実の問題を浮かび上がらせる。②それぞれの研究領域・問題設定と日本国憲法の価値規範(平和的生存権の実現)との接点を確認し、憲法を研究や生き方にどう生かせるかを考える。

**座長**：池上幸江（大妻女子大学名誉教授）、久米鏡花（東京大学院生）

14：00－14：05 開会あいさつ 真嶋麻子（津田塾大学）

14：05－14：35（1）金子 勝（立正大学）：「平和的生存権」の普遍化を求めて

14：35－15：05（2）本庄十喜（公益財団法人政治経済研究所）：

平和的生存権としての戦後補償－歴史的な文脈からどう捉えるか－

15：05－15：35（3）広井暢子（日本共産党女性委員会責任者）：

女性の人権と平等の課題について－世界の変化・到達点、そして憲法がうたう平等

15：35－15：45 <休 憩>

15：45－16：15（4）真嶋麻子（津田塾大学）：「平和的生存権」をめぐる国際社会の動向

16：15－16：45（5）中島明子（和洋女子大学）：

日本における居住貧困－平和的生存権の基盤としての人間らしい住まいを求めて－

16：45－17：25 総合討論

17：25－17：30 閉会あいさつ 石渡真理子（ミズ分会）

**【5】分科会名：大学はブラック企業になってしまうのか** 12月1日14：00～17：30（7405室）

設置責任者：増田正人

設置趣旨：労働法の改正問題は、これまでの大学のあり方を大きく揺さぶっています。近年進められてきた雇用の流動化や有期のプロジェクトを中心にした研究のあり方、非常勤講師に支えられた教育システムなど、これまでのあり方が否定されており、大学における教育・研究のあり方は変わることが余儀なくされています。どちらの方向に変わるのか、私学連盟などにみられる経営サイドの方向への転換になるのか、それとも、教育・研究に関わる者の地位と権利を守る方向に進むのか、大学人の行動が問われています。この分科会では、研究、教育の最前線にしながら、その社会的地位の弱さゆえに翻弄されざるを得ない若手研究者、非常勤講師の方の報告、大学経営の制度的な問題など、各方面からの報告を得て、大学改革の方向を考えていきたい。

**座長**：衣川清子（東京支部常任幹事）

14：00～14：30（1）増田正人（法政大学）：大学生生き残り競争と深刻化する私学経営の実態

－日本社会の変化の中で深刻化するブラックな大学経営－

14：30～15：00（2）巻口勇一郎（常葉大学短大部）：組織の内部論理と主体性・超越性の獲得

－公益法人、社会福祉法人、学校法人の健全性と同族経営の功罪－

15：00～15：20 <休 憩>

15：20～15：50（3）松村比奈子（拓殖大学非常勤講師・首都圏大学非常勤講師組合委員長）：

労働契約法改正をめぐる大学の動きと社会的背景－なぜ非常勤講師を使い捨てにしたいのか－

15：50～16：20（4）大野英士（早稲田大学）：経営を教育に優先するブラック大学

－改正労働契約法をめぐる早稲田の迷走－

16：20～16：30 <休 憩>

16：30～17：20 質疑・討論

**【6】分科会名：日本の高等教育を立て直すために** 12月1日10：00～13：00（7403室）

設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）

設置趣旨：日本の高等教育は崩壊の危機に瀕している。高等教育再生実行会議などが提言を出し一層の改変に乗り出しているが、重要な問題を看過しているため有効なものとならず、むしろ種々の格差を広げ、この間進めてきた改悪の弊害を増す危険がある。

当分科会では、教育・研究の現場で生じている問題から出発し、問題の発生原因を分析するとともに、解決の展望を考察する。なおJSAは問題の解決のため高等教育関連団体と懇談会をもってきたが、その運動と研究の成果発表の場としても位置付ける。

キーワード：教育権、教育と競争、研究と教育の関係、後継者養成、構成員自治、民主的改革など

座長：佐久間英俊（中央大学分会）

10：30～10：35（1）佐久間英俊（中央大学分会）：テーマ解題

10：35～11：05（2）齋藤安史（JSA 大学問題委員会、群馬支部）：

安倍政権下の「大学改革」が強行されると大学は破滅する

11：05～11：35（3）栗野 宏（山形大学）：「アベノミクス成長戦略」のもとで大学に起きていること  
—地方国立大学からの報告—

11：35～11：45 <休憩>

11：45～12：15（4）佐久間英俊（中央大学分会）：私立大学壊滅の危機と問題解決の方向

12：15～13：00（5）総合討論

### 【7】分科会：日本における流通の再生と公正取引

12月1日 14：00～17：30（7407室）

設置責任者：佐久間英俊（中央大学分会）

設置趣旨：1990年代初頭から続く低価格競争によりコスト削減を強いられた日本企業は、賃下げに続き流通費用の削減に腐心している。また流通業ではこの間パワーを増した大規模小売企業が、自社に有利な取引制度を構築し他者に負担転嫁することで一層成長する一方、商店街の空洞化にみられるように中小の流通業者は衰退・停滞を余儀なくされている。

取引が公正であるべきことは万人周知のはずだが、日本の現行の取引制度はその名に値するのか。消費者や中小業者の視点も入れて検討する。

キーワード：「価格破壊」、公正取引、流通政策、商業独占、地域の衰退、フードデザートなど。

座長：佐久間英俊（中央大学分会）

14：00～14：05（1）佐久間英俊（中央大学分会）：テーマ解題

14：05～14：40（2）佐久間英俊（中央大学分会）：日本的流通の激変と再生の展望

14：40～15：40（3）中澤 誠（全労連・全国一般東京地本、東京中央市場労働組合）：  
築地市場移転問題とTPP

15：40～15：50 <休憩>

15：50～16：10（4）名和秋教（全労連・全国一般東京地本流通政策研究会）：

「公正取引委員会」要請風景—買ったたき・不当廉売を防止し、公正取引の実現を目指す共同行動を

16：10～16：50（5）栗須 格（全国一般労働組合東京地方本部）：

日本政府の流通政策について—労働組合としての取り組み

16：50～17：30（6）総合討論

### 【8】分科会名：JSAの運動をいかにして発展させるか

11月30日 10：30～13：00（7406室）

設置責任者：長田好弘（東京支部代表幹事）、佐久間英俊（中央大学分会）、山川賢次（運研分会）

設置趣旨：3.11後、人々の生活の苦難が増すとともに科学に対する期待は一層高まっている。だが、広範な学問領域でそれを担うべきJSAは、会員数の面でも低迷しており、そうした期待に十分応えてきていない。当分科会ではJSAの運動に関して、発展のための課題と方策を検討する。すなわち、①市民の期待に応える科学の今日的課題とは何か、②過去20年余の会員減の理由と教訓は何か、③JSAの魅力を高め

員増に転じるには何が必要か、といった点の議論を深めたい。キーワード:市民の期待、科学者の役割、市民に開かれた運動、JSAの魅力、後継者養成、関東甲信越地区の支部活動の教訓など。

**座長**：長田好弘（東京支部）、佐久間英俊（中央大学分会）、山川賢次（運研分会）

10：30～10：35（1）佐久間英俊（中央大学分会）：テーマ解題

10：35～10：50（2）佐久間英俊（中央大学分会）：3.11後の情勢と科学運動の再生産

10：50～11：10（3）松永光司（東京支部事務局長）：東京支部における組織強化活動の教訓

11：10～11：30（4）山川賢次（運研分会）：運輸研究機関分会44年の歩み

11：30～11：40 <休憩>

11：40～12：00（5）長田好弘（東京支部代表幹事）：科学者運動の条件と課題（上）

—科学者運動がかかってない広さと深さをもつて発展しうる—

12：00～12：20（6）長田好弘（東京支部代表幹事）：科学者運動の条件と課題（下）

—研究者の要求にもとづく諸活動—

12：20～13：00（7）総合討論

### 【9】分科会名：災害対策と公共事業

11月30日10：30～13：00（7405室）

設置責任者：渡邊章（環境アセスメント問題都民連絡会事務局長）

設置趣旨：東日本大震災があつて災害対策と銘打った公共事業が全国で幅を利かせている。それが本当に災害対策となるのか、災害対策なら、自然破壊はお構いなしなのかが、いま鋭く問われている。その実態をリアルに引きずり出し、科学的検討を加えることは、緊急で切迫したテーマとなっている。

**座長**：渡邊章（環境アセスメント問題都民連絡会事務局長）

10：30～10：35（1）開会あいさつ 渡邊章

10：35～11：10（2）末延渥史（防災問題研究会）

11：10～11：18（3）事例報告1 池戸アキコ（品川区住民のくらしと安全を守る会事務局長）

11：18～11：26 事例報告2 姥山順次（北区道路ネット幹事）

11：26～11：34 事例報告3 柴田裕（豊島区73・82号線沿線住民）

11：34～11：42 事例報告4 額賀和子（足立区議会議員）

11：42～12：42 自由討論

12：42～12：52 討論に対するまとめ的発言 末延渥史（防災問題研究会）

12：52～12：57 閉会のあいさつ 渡邊章

### 【10】分科会名：原発即時ゼロと気候変化抑止の両立を展望する 12月1日10：00～17：30（7404室）

設置責任者：佐川清隆（東京大学大学院生）、本間慎（元フェリス女学院大学学長）

分科会事務局 俣野景彦（東京支部常任幹事）

設置趣旨：本分科会では、福島第一原発事故の被害の深刻さと、人類の存続に深刻な影響を与える気候変化（地球温暖化）の諸問題を科学的根拠に基づいて明らかにし、その重要性を確認する。その上で、原発即時ゼロと気候変化抑止を両立させる展望として、日本全体の電力・エネルギー供給のシナリオ、省エネルギーや自然エネルギー導入を実践的にどのように進めていくかを考える。また、政府、自治体、市民の役割をあらためて議論したい。

**午前の部 座長**：俣野景彦

10：00～10：10 開会挨拶 俣野景彦（東京支部常任幹事）

10：10～10：55（1）宮井迅吉（東京支部個人会員）：

地域の自然エネルギー社会をめざす運動の経験から

10：55～12：05（2）江守正多（国立環境研究所 気候変動リスク評価研究室長）：

IPCC第5次評価報告書および気候変動のリスク管理について

**午後の部 座長：俣野景彦**

- 14:00～14:55 (3) 佐川清隆 (東京大学大学院) :  
2020年を見ずえた日本での自然エネルギー導入必要量と現状
- 14:55～15:40 (4) 石綿 勇 (武蔵野通研分会) :  
太陽光発電の導入の現状と問題点、大量導入への課題
- 15:40～16:25 (5) 平戸治夫 (土浦民主商工会) :  
地元農民と協同しての太陽光発電設置事業の紹介(仮題)
- 16:25～16:50 討論

**【11】分科会名：生活と地域重視の日本経済への転換 11月30日10:30～13:00 (7404室)**

設置責任者 米田貢 (中央大学)、八幡一秀 (中央大学)

設置趣旨：自動車や電気・電子機器などの輸出関連大企業のグローバル化は、1980年代以降一貫して輸出依存型の経済成長を追求してきた日本の国民経済に深刻な問題を投げかけている。これらグローバル企業の成長は中国や東南アジア諸国のGDPの成長に貢献しても、日本の国民経済の発展や国民生活の向上には成長利益とは一致しない。カネ、モノとは異なり、ヒトはグローバル経済化の時代においても、一定の地域を生活と労働の拠点にしている。大企業・輸出依存の国民経済を、人々の生活と地域を重視した国民経済に転換すべき時が来ている。地域経済を支える産業とは何か、循環型地域経済を各地でいかにつくり出すのか、生活と地域重視の国民経済づくりに財政はどのような役割を果たすべきなのか、さまざまな角度から、新たな日本経済像を探る。

**座長：米田貢 (中央大学分会)**

- 10:30～11:05 (1) 米田貢 (中央大学分会) :  
循環型地域経済を基礎にした国民経済への転換を展望する  
ーグローバル企業依存の成長戦略からの脱却ー
- 11:05～11:40 (2) 大須眞治 (中央大学分会) :  
第1次産業を基礎とした地域経済の再建の道の可能性  
ー日本農業の現実といくつかの地域調査から考えるー
- 11:40～12:15 (3) 矢野ゆたか (前狛江市長) : 「住民自治のまち」への接近めざして  
ー狛江市長としての16年間の実践からー
- 12:15～12:25 <休憩>
- 12:25～13:00 討論

**【12】分科会名：アベノミクスを斬る 12月1日10:30～13:00 (7405室)**

設置責任者：大西広 (慶應義塾大学)

設置趣旨：今夏の参議院選挙における政府与党の勝利の原因は「アベノミクス」の成果の宣伝によるところが大きいが、他方でその問題点も現実の問題として表面化しつつあり、その声もまた共産党への支持という形で現われた。つまり、アベノミクスには、ある社会階層には利益をもたらすが、ある社会階層には不利益をもたらすという関係があるといえる。とすると、誰が利益を得、誰が不利益を得ているのか。これは安倍政権の性格規定とも関わる問題であり、本分科会で討論される。安倍政権は同時にTPPの推進と言った経済政策も推進しているので、それと合わせ討論したい。

**座長：大西 広 (慶應義塾大学教授)**

- 10:30～11:20 (1) 大西 広 (慶應義塾大学教授) : アベノミクスの歴史的 position と階級対抗
- 11:30～12:20 (2) 鶴田満彦 (中央大学名誉教授) : アベノミクスで日本経済はどうなるか
- 12:20～13:00 総合討論

**【13】分科会名：原発問題を考える文学サロン**

11月30日11:00~13:00 (7305室)

設置責任者：風見 梢太郎 (作家 武蔵野通研分会)

設置趣旨：前回の東京科学シンポジウムでは、文学に描かれた原子力、原発についての知識を共有しました。福島原発の事故から二年半がたちますが、今回はこの二年余に書かれた原発事故に関わる文学作品を紹介し合い、原発の廃止に向けて文学に何が出来るかを探りたいと思います。前回、前々回と同様に、関心のある方々が自由に交流できるサロン形式にしたいと考えています。

座長：風見 梢太郎 (作家・東京支部)

11:00~11:30 (1) 風見梢太郎 (作家・東京支部)：原発問題を描く文学の課題と展望

11:30~13:00 (2) 討論と交流

**【14】分科会名：日本の食と首都圏の役割を考える**

11月30日10:30~13:00 (7408室)

設置責任者：西村一郎

設置趣旨：震災からの復旧・復興の目途がまだ立たない中で、我が国の食にも大きく影響するTPP参加や憲法改悪などの動きが活発化しつつあります。経済優先の資本の論理だけでなく、人々が安心して将来ともに生活できるために、何が日本の食や農などに求められているのか、多方面からの問題提起を受けて参加者と一緒になって考えます。

座長：西村一郎 (食糧問題研究委員会)

10:30~11:00 (1) 西村一郎 (食糧問題研究委員会)：被災地から考える日本の食とTPP

11:00~11:30 (2) 本間圭吾 (食糧問題研究委員会)：TPPのゆくえと日本の農業に関する一考察

11:30~12:00 (3) 原 英二 (食糧問題研究委員会)：TPPと食の安全

12:00~12:10 &lt;休憩&gt;

12:10~13:00 質疑応答、討論

**【15】分科会名：東日本大震災に、立ち向かうということ**

11月30日10:30~13:00 (7303室)

設置責任者氏名：星野彬

設置趣旨：未曾有の大震災から、早くも2年以上。しかし、津波や原発事故の残した傷跡はいまだ癒えきっていない。原発推進の政府、東電の賠償問題、沿岸部の津波による被災地の復興など、メスを入れるべき問題は多く残っている。問題が山積みとなっている状況で、院生や研究者たちは、3.11直後から今に至るまで、東日本大震災に対してどのように立ち向かってきたのか。本分科会では、若手・院生の報告を中心に、震災に関連する問題を研究している方や、被災地や反原発の市民運動の現場を体験した方の報告を予定している。東日本大震災に正面から対峙してきた人々の生の声を、この分科会では聴くことができる。

(1) 佐川清隆 (東京大学)：脱原発と温暖化抑止の両立を求める1院生の活動

(2) 神谷 仁 (ポスト311研究会、東京農工大学D2)：Chain Reactions もう一つの連鎖反応  
—ポスト311の市民運動を考える—

(3) 新川綾子 (一橋大学)：JSA夏の学校2013 in 宮城参加記

—「震災から2年、被災地のくいま」を学び、「これから」を考える—

**【16】分科会名：人間らしい労働環境を取り戻すために—企業の労務政策と労働疾病・職業病と闘う—**

設置責任者：米田貢 (東京支部)、河上茂 (東京支部常任幹事) 12月1日14:00~17:30 (7408室)

設置趣旨：安倍政権復活から約1年弱、国民にとって極めて重大な経済政策が強行されようとしている。新自由主義的な企業経営がますます強まり、労働者への権利侵害、労働環境の悪化が一段と進んでいる。一方、人間らしい働く環境を取り戻し、真の国民の豊かさを目指す闘いも力強く進んでいる。本分科会では、企業が押し進める不当な労務政策がもたらす多様化・複合化する職業病などについてのリアルな実態を踏まえて、労働者、市民そしてJSAをはじめとする専門家の連帯について考える。



座長：河上 茂（東京支部常任幹事）、米田 貢（中央大学教授）

14：00－14：05 開会（分科会の主旨） 米田 貢（中央大学）

14：05－14：45（1）鷺谷 徹（中央大学）：「ブラック」化する企業と国家 ～ディーセントワークの展望～

14：45－15：25（2）井上 久（全労連事務局次長）：ブラック企業化を促進する安倍「雇用改革」  
－世界で一番企業が活動しやすい国か、それとも人間が幸せな日本か－

15：25－15：35 <休憩>

15：35－16：00（3）鮫島敏昭（日航労災職業病患者会事務局長）

日航の分裂労務政策と健康を守る闘いの歴史－労働強化と労働疾病・労災職業病－

16：00－16：25（4）森 陽子（JAL 不当解雇撤回裁判原告団事務局次長）：

JAL 不当解雇撤回闘争の今－解雇闘争とILOの活用－

16：25－16：50（5）佐々木 仁（新京王労組）：許されない企業行動

－労災事件が多発するバス職場で何が起きている－

16：50－17：25 総合討論

17：25－17：30 閉会（感想と謝辞） 河上 茂（東京支部常任幹事）

### 【17】分科会名：ニセ科学問題

12月1日10：00～17：30（7406室）

設置責任者：左巻 健男（法政大学生命科学部）

設置趣旨：ニセ科学とは、科学の専門家かから見て科学ではないのに、「科学っぽい装いをしている」あるいは「科学のように見える」にもかかわらず、とても科学とは呼べないものを指します。ニセ科学は、疑似科学やエセ科学とも呼ばれますが、基本的に同じです。EM、マイナスイオン、健康食品・サプリメント、デトックス、ホメオパシー…と程度の差はありますがニセ科学が世にあふれています。とくに健康系（水、食品、身につけるものなど）に多いです。3.11大震災を契機として、「放射線対策をめぐるニセ科学の数々」も目立ちます。ニセ科学は、理科教育や科学リテラシーの育成の基盤を崩し、まともな商品や治療法、環境活動などから遠ざけ、社会にとってマイナスの存在です。本分科会では、次のようなことをじっくりと議論していきたい。・ニセ科学の現状・ニセ科学はなぜはびこるか・個別的にニセ科学の問題点・ニセ科学に抗して行くには・科学リテラシーの育成の活動

座長：左巻健男（法政大学）

10：00～10：10 開会の挨拶

10：15～10：55（1）左巻健男（法政大学）：健康系ニセ科学の特徴

－「体験談」と「わかりやすい物語」と「科学的装い」

10：55～（2）池上幸江（J分会）：健康食品・サプリメントの有効性と安全性の科学

～12：20（3）（アリエナイ理科ノ教科書の）くられ：サプリメントビジネスの舞台裏

12：20～13：10 <昼休み>

13：10～13：50（4）天羽優子（山形大学）：民事訴訟における科学コミュニケーション

－ニセ科学商法被害回復のために

13：55～（5）清水 隆裕（社会医療法人敬愛会ちばなクリニック）：

医師としてのニセ科学への対応

～15：20（6）大西淳子（医学ジャーナリスト）：科学と医学とニセ科学のあいだ

15：25～（7）呼吸発電（ハンドルネーム）：原発事故とニセ科学

～16：50（8）佐野和美（(独)国立環境研究所）、菊池誠（大阪大学サイバーメディアセンター）：

放射線の健康影響に関する非科学的な説の受容と広まりかた

16：55～17：30 全体討論、終わりの挨拶

**【18】分科会名：首都圏で生き抜くための防災・減災対策** 12月1日10:00~13:00(7407室)

設置責任者：坂巻幸雄・中山俊雄・川合将文

設置趣旨：首都直下地震の危険が叫ばれて久しいが、都市の防災力強化とは相反する大規模開発の波は、ますます加速されてきている。一方で、この傾向に懸念を抱く住民層からは、自主的な防災・減災のための調査・学習活動や、科学者との新たな連携も始まってきている。この分科会ではそれらの活動体験を交流しつつ、新しい展望の構築へ向けて、論議をさらに深めたい。

座長：坂巻幸雄（東京支部）

10:00~10:20(1) 中山俊雄（土研分会）、川合将文（土研分会）：

東京の都市防災問題のあらたな展開

10:20~10:50(2) 坂巻幸雄（東京支部）：災害弱者の視点で見た東京五輪問題

10:50~11:00 &lt;休憩&gt;

11:00~11:30(3) 末延渥史（防災首都圏懇談会）：2020年オリンピックと防災

11:30~12:00(4) 田畑 健（ガス問題懇談会会員）：防災と経年劣化・腐食ガス管問題について

12:00~12:30(5) 土屋十圀（中大理工学研究所・前橋工科大学名誉教授）：

激化する首都の水災害にどのように対処するか

12:30~13:00 &lt;総合討論&gt;

**【19】「科学」と「人」の〈あいだ〉** 12月1日10:00~13:00(7408室)

設置責任者：丸岡敬和（農工大博士課程2年）

設置趣旨：日本科学者会議の使命は、科学者が科学の社会的責任と役割を自覚し、総合的な発展と平和利用を目的としています。そしてその使命は、先端的な科学技術である原発の事故が起きた、311以後一層強まっていると言えるでしょう。そして、エセ科学や捏造が横行し、また科学の行き詰まりも予感させる中、改めて科学と人との関係を問い直す。様々な分野の研究者が集まり、それぞれが自らの分野における科学を論じ、最後に総合討論をする。

座長：丸岡敬和（東京農工大学 博士課程2年）

10:00~10:15(1) 丸岡敬和（農工大博士課程2年）：

科学と人の〈あいだ〉—これからの人がする科学とは？—

10:15~10:30(2) 中村清二（首都大学東京大学院）：民主主義（公共性）にとつての「科学の頑さ」

10:30~10:45(3) 柴田和宏（東京大学大学院）：

歴史から学ぶということとその難しさ—科学と人間の関係をめぐって

10:45~11:00(4) 海野牧人（上智大学大学 社会学）：

詩的言語の表象可能性—科学的言語と詩的言語の交差はいかにして可能か—

11:00~11:15(5) 牛木秀治（東京農工大学教授）：

（自然）科学と（唯物）弁証法 —科学と社会の同時進行・人間がする自然科学—

11:15~11:30(6) 西村明生（農工大博士課程1年）：演題 私の科学論

11:30~11:45 &lt;休憩&gt;

11:45~13:00 総合討論

**4. ポスターセッション**

11月30日10:30~12月1日17:30(7412室)

(1) 武蔵野通研分会：60回目を迎えた分会シンポジウム

(2) 山川賢次（運研分会）：運輸研究機関分会の歩み

## 5. 市民参加の企画

### ■展示

(1) 日中友好と歴史認識のための展示 11月30日10:30~12月1日17:30 (7409室)  
設置責任者:長沼 仁(撫順の奇蹟を受け継ぐ会東京支部)

展示内容:日中友好を推し進める「撫順から未来を語る」活動を紹介する。一つの町に併存する正と負の日中歴史事件、中国帰還者連絡会を生み出した撫順戦犯管理所と日本軍による大虐殺事件平頂山事件。現在も継続する日中双方の活動と築かれていく人間関係に着目いただきたい。

(2) 日本・キューバ友好の展示とイベント 11月30日10:30~12月1日17:30 (7410室)  
展示責任者:増澤誠一(日本キューバ友好協会)

展示内容:超大国・米国のお膝元で、社会主義建設を進めているキューバ。  
そのキューバに関する知見や文化を紹介します。多面的にキューバを体験して下さい!

(3) 日朝友好とアジアの平和のための展示 11月30日10:30~12月1日17:30 (7411室)  
—関東大震災時の朝鮮人虐殺と犠牲者の追悼

設置責任者:赤石英夫(日朝協会東京都連合会・事務局長)

展示内容:1923年9月1日の関東大震災では、その直後から「朝鮮人が井戸に毒を流した」などの流言蜚語が人々の恐怖心をあおりました。朝鮮人への差別や、3・1独立運動以後の民族運動の高揚に対する恐怖心が流言の発生の背景であったと言われています。政府は直ちに軍隊を出動させ、朝鮮人を検束し、朝鮮人に対する「取締」などを講ずる指令を出しました。軍隊・警察や自警団によって多くの朝鮮人や中国人等が、そして社会主義者はじめとして日本人が虐殺されました。しかし、この虐殺事件に関して、起こされた時から現在に至るまで90年間政府による真相究明も謝罪も行われていません。2003年に日弁連が真相究明と謝罪を政府に勧告しましたが無視されています。事件の50周年の1973年に日朝協会東京都連合会を中心にした追悼碑建立実行委員会によって「関東大震災朝鮮人犠牲者碑」が東京墨田区横網町の都立公園に建立されました。この追悼碑の前で1973年以来毎年9月1日に「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式」が日朝協会東京都連合会などの実行委員会によって行われています。追悼式ではこれらのパネルが展示され、読経・鎮魂の舞が行われ、各界から追悼の辞が述べられます。

### ■プレ企画

#### (1) 東京科学シンポジウム記念囲碁大会

企画責任者:小嶋茂稔、矢作英夫、長田好弘

日時:10月27日(日) 5チーム参加で、熱戦のうちに終了。優勝は日中友好協会チーム。

穂坂繭3段(日本棋院)の指導碁をうけ、大いに楽しみました。

#### (2) 平和のためのコンサート クラシック、ジャズギター、歌曲と、ワインを楽しみましょう。

企画責任者:松永光司、長田好弘、 日時:11月24日(日)午後5時~7時30分、

会場:佐野書院(一橋大、国立市) 会費:一般2,000円、院生・学生1,000

## 6. 開催日程(会場の都合等で変更する場合があります)

	時間帯	内容
11月30日(土)	10:00~10:30	受付
	10:30~13:00	分科会
	14:00~17:30	特別報告
	18:00~	懇親会(1号館1406)
12月1日(日)	10:00~13:00	分科会
	14:00~17:30	分科会

## ・参加費

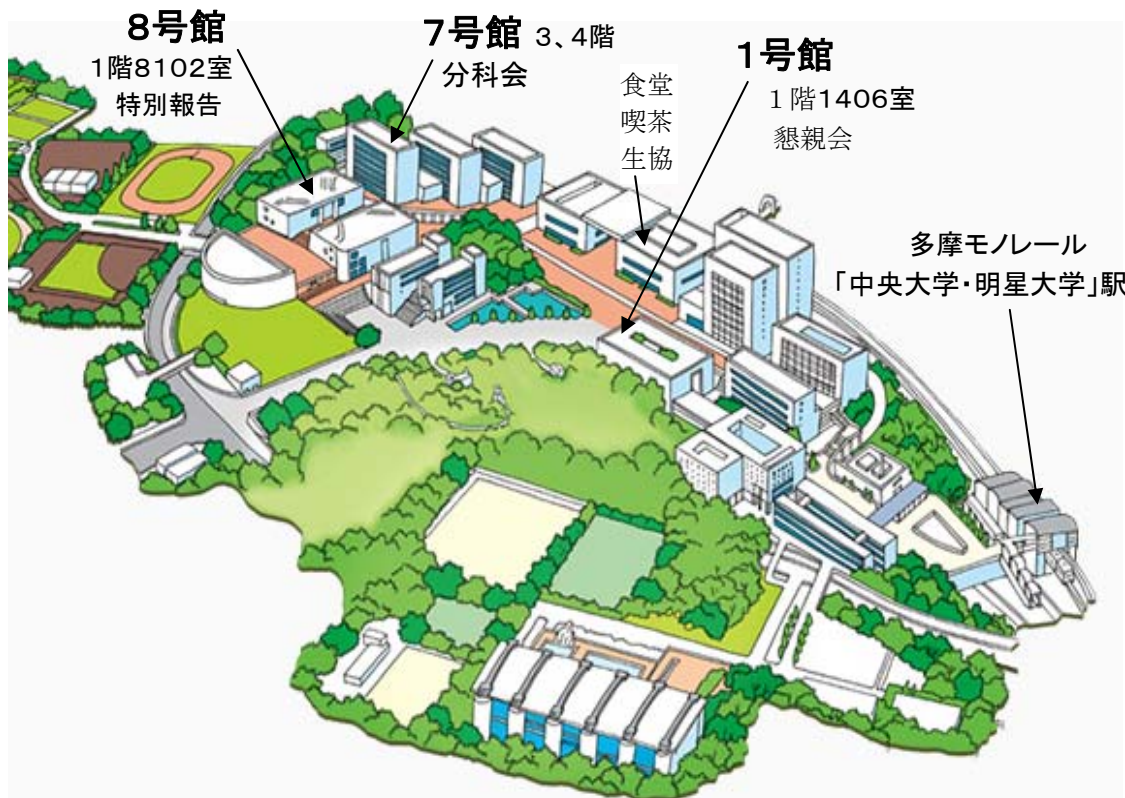
	参加費	懇親会費
一般	1,000円	3,000円
院生・学生	500円	1,000円

\*会員・非会員の区別はありません。  
参加費には予稿集代金を含みます。

## 7. シンポジウム会場

(中大ホームページ <http://www.chuo-u.ac.jp/campusmap/tama/> を参照)

中央大学・多摩キャンパス (東京都八王子市東中野 742-1)

引用：中大 HP (<http://www.chuo-u.ac.jp/campusmap/tama/>)

## 主要駅からのアクセス

- 多摩モノレール『中央大学・明星大学駅』から徒歩 1 分 ※モノレールは下記の駅で接続  
・JR 中央線「立川駅」・京王線「高幡不動駅」, 「多摩動物公園」・小田急線・京王線「多摩センター駅」
- 京王線『多摩動物公園駅』から徒歩 10 分
- 小田急・京王線『多摩センター駅』下車、バス(13 番バス停)で 12 分
- JR『豊田駅』下車、バス(4 番バス停)15 分

## 第17回東京科学シンポジウム実行委員会

実行委員長：長田好弘(支部代表幹事)

事務局長：松永光司(支部事務局長)

実行委員：池上幸江(支部代表幹事)、石渡眞理子(支部常任幹事)、河上茂(支部常任幹事)、  
 衣川清子(支部常任幹事)、小金澤鋼一(支部常任幹事)、柴田和宏(支部常任幹事)、佐川清隆  
 (東京支部)、佐久間英俊(支部幹事)、多羅尾光徳(支部常任幹事)、中野貞彦(武蔵野通研分会)、  
 橋本良仁(支部幹事)、星野彬(支部幹事)、真嶋麻子(支部常任幹事)、俣野景彦(支部常任幹事)、  
 峰尾菜生子(支部常任幹事)、米田貢(全国事務局長) (11月8日現在)

日本科学者会議東京支部 第17回東京科学シンポジウム実行委員会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 茶州ビル9階

Tel/Fax：03-3811-8281 e-mail：17th-kagaku@jsa-t.jp